

侵略戦争を大東亜戦争、アジア解放の戦争と教える 危ない中学校教科書を採択しないことを求めます

2015年6月18日
大阪市をよくする会常任幹事会

大阪市立の中学校で来年度から使用される教科書が、8月初旬に大阪市教育委員会において採択されます。憲法と子どもの権利条約にもとづき、子どもたちの成長・発達を保障する教科書の採択が求められています。教科書の選択は日々子どもたちの向き合っている教員の声や保護者の声を尊重して行われるべきで、文科省も「保護者等の意見を踏まえた調査研究の充実」は重要、「調査研究にあたっては、幅広い意見を反映させるために、通常、教員、学校の先生方や保護者の方をはじめとした調査委員が選任されている。児童生徒に対して指導を行う教員の果たす役割は決して小さくない」としています。

今年度の採択をめぐり、侵略戦争を「大東亜戦争」と書き戦争を美化し、GHQに押しつけられた憲法は改正が必要と誘導する、政府の見解を一方向的に記述する、歴史・公民教科書が問題になっています。教科書問題・教育関係、研究者、平和、女性など、韓国の市民団体も含む90団体が6月2日、「歴史と歪め戦争を美化して『戦争する国づくり』へ子どもたちを導く憲法敵視の教科書の採択を許さない世論と運動を大きく発展させよう」との共同アピールを発表しました。全国で、大阪府下でも批判の声が上がっています。

以上のことから、今年度の教科書採択にあたり、憲法や子どもの権利条約にもとづき真理・真実を伝える教科書が採択されるよう以下のことを求めます。

記

- ① 教科書展示会における保護者、市民の意見を尊重すること。
- ② 調査・研究にあたっては、子どもたちと直接向き合う教職員の声を反映すること。
- ③ 日本の侵略の歴史をゆがめ、平和憲法を攻撃する中学校歴史・公民教科書を採択しないこと。
- ④ 危険な教科書、「育鵬社」、「自由社」の教科書は採択しないこと。

以上